

小林町政の「この一年」

きたる三月十二日から新年度の足寄町政の方向とそれにとともに当初予算を審議する第一回の定例町議会がひらかれます。全道の首長のなかで最年少の小林弘道氏が足寄町政を担当した「この一年」はいささかはじめての町長職にふりまわされた格好でしたが、いよいよこれから本番で、理事者になりたてだからではすまされない第二年度を迎えようとしています。

庁内人事に新風もたらす

高橋前町長は生え抜きの足寄子で、当選直後には役場職員に向って「係長は課長に、課長は助役に、助役は町長になるようにがんばってほしい」と激励していただいたものの、実際には助役も教育長も林務課長も産業課長も病院事務長も消防次長もすべては庁外から移入

安定した議会勢力を背景に

町議会の勢力分野は、与党派、大滝弥助、斎藤昇、宮口政雄、吉田吉之助、矢野寛一、鳴海一郎、王塚義雄、斎藤祐一、神本三也、佐々木政一、福本義輝、青木収、我妻茂治、香川博彦、大野耕太郎の十五氏

道や国の受けがよい

こうした背景から小林町長は前町長から引き継ぎの上水道拡張工事の推進、ラワン中学校の統合校舎の完成、学校給食センターの新設などに取り組むとともに、

県案事項はすすまざる

議員は十二年間で常勤職の理事者となればなまやましいものではなく、若さにもものをいわせて札幌への出張などは夜行で行って夜行で帰るよう一生懸命ですが、県案の難題は未だになにひとつとして解決できない現状にあるというところです。

無理だった魚菜市场

魚菜卸し売り市場開設問題は小林町長の選挙公約で

信念のなさと議会の無理解

高橋前町長が約百万円の町費をかけて引きおこした元西小学校校舎敷地をめぐって、小林町長は町民との争いをさせて、町のほしいのは今すぐ公営住宅などが

議決事項ではないので昨年九月の町議会で町長が議定の結果を報告したところ町のとり分六、二一三平方メートルにして佐々木氏の二七、六九五平方メートルではヒラキがありすぎるとして異議が出たために町長はこれを引つ込めました。

片一方を宅地とし片一方を農地として指定すれば面積にヒラキが出るのは当然で、双方が公平な第三者である専門家に評価を依頼して、町長として議定しているのに、町長として議定したものを指し示さなければならぬといふ信念と説得力のなさを指摘しなければならぬといふことも、公用廃止地内の現況農地を宅地扱いにしている議会が佐々木氏の宅地見込み地を農地扱いにしようにとする身勝手な無理解が問題の解決を妨げているものといえます。

白糠線鉄道の測量の被害補償費にしても、ひとつは議会に提案した以上はあくまでも協賛を求めべきであつて、議会のその場の空気に調子を合わせて撤回してみたり再提案したりでは関係住民としては頼りないしなすとなります。

公用廃止地問題が今日まで難航をつづけてきた最大の原因は国や道が現地の実情を把握しないで軽率にことをすすめてそのあと始末に困つて町にたいして無理難題を強いているところにあります。(以下裏面へ)



(発行所) 北海道足寄郡足寄町とち新聞社 電話 1351番
本紙購読料 北海道足寄郡足寄町 一月75円 一月前納750円

○となり合せでありながら本別、足寄、陸別、三町で金を出し合つてなかく事業をやるというところはなかつたが、し尿処理場のはなしはどうか力を合せて来年から手がけることになりました。

コップのなかの嵐

開いた魚菜卸し売り市場問題本別の大広社長兼商工会長に軽くイナされた形。○おさまらない足寄側では本別市場は相手にせずとの嵐、といった格好。



技術に生きる！
ステレオレコード
—あらゆる電気器具—
有限会社 ミネ・デンキ
足寄劇場前 電話 142番

近代住宅に新建材！
家具 建具 製造 各種サツシ施工
各種建築資材
新築 改築に御相談下さい！
桜井建具店
足寄町北五区 電話 362番

不動産についての御相談は
調査、売買、あつせん、管理、分譲
代行、登記、損害保険代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許第26号
足寄町本通り三丁目 T三四五

上野カメラ堂
カメラ
ハミリ
写真材料
足寄町通り T四二〇
上野復興